向日葵だより
黒沼共同会計事務所
Kuronuma Accounting Office
あなたの快経パートナー
第３１７号
2024年2月10日発行

青い目の人形と大谷グローブ

正月元旦に起きてしまった能登半島大地震、被災された方々には、心からお見舞いを申し上げます。地震大国の我が国は、高齢社会で人口減少へと向かう中でも，この地震列島に住み続けなければならないのが現実。当然のことながら、この環境と折り合ってどう暮らして行くのか，知恵を絞って地道な対策を着実に実行することが大切と思います。

さて、「青い目の人形」と呼ばれた友情の人形のことを皆様ご存じでしょうか...。今から百年近く前の1927（昭和２）年、一人の米国人宣教師の呼び掛けによって、米国から日本へ約 13, 000 体の人形が贈られました。当時、悪化していた両国関係の改善を願って、「友情の人形使節」が日本各地の幼稚園・小学校などに届けられたのです。（私の母校の「礼法室」と呼ばれた畳敷きの教室の片隅に、一体の古びたアメリカ人形が飾られていたような、おぼろげな記憶があります…）その後、願いもむなしく始まってしまった太平洋戦争。この時、日本の子どもたちは交戦国の米国と英国のことを「鬼畜米英」と教えられていたため、開戦の１４年前の“友情の証”として贈られた青い目の人形は、一転して“スパイ人形”などと言われ、燃やされたり踏まれたりするようになったようです。（そんな戦争を生き抜いた青い目の人形を、平和について考える教育に活用する取り組みも、現在行われているそうです…。（なお、ウィキペディア（Wikipedia）によると、返礼として、渋沢栄一を中心とした日本国際児童親善会による呼びかけで、青い目の人形が贈られた小学校等の児童から集められた募金を元に製作された「答礼人形」と呼ばれる市松人形 58 体が、同年 11 月に天洋丸で日本からアメリカ合衆国に渡り、全米の児童たちの歓迎を受けたうえで各地の博物館・美術館などに寄贈されたとのことです。））

続いては、今話題の「大谷グローブ」を取り上げてみました。エンゼルスからドジャースに移籍した大谷翔平選手は、メジャー史上最高の総額７億ドル（約 1015 億円）で契約を結びましたが、けた違いの金額以上に、さわやかな話題も提供しています。全国約 2 万校の小学校に寄贈されるグローブは、次々と各地の学校に届いているようです。1 校 3 個（右利き用高学年向けと低学年向けの２個、左利き用 1 個）ずつ、計 6 万個のグローブには、「野球しようぜ！」の言葉と「私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます」とのメッセージが添えられ、大谷選手の人柄や気配りがにじみ出ているような気がします。さらに、球界スーパースターのけた違いな震災支援も、大きな注目を浴びています。なんと 100 万ドル（約 1 億 4500 万円）という個人の寄付金としては破格と言える額だったのです。

政治資金パーティー裏金事件で、だらだらと迷走する今日の与野党間の政争同様、3 個だけでは野球ができる？　学校より先に市役所に展示するのが筋？などの大人たちの上面だけの感覚や論議には、大いなる幻滅を感じるのは、私だけでしょうか...。

公認会計士　黒　沼　　寛